

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B)		授業コード	C172569
担当教員名	吉村 充功		科目ナンバリングコード	L31205
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	建築コース (選択) インテリアデザインコース (選択) 環境・地域創生コース (選択)	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	本科目の実施日程等は、選択した研究室により異なりますので、担当教員の指導を受けて下さい。			
受講心得	選択した研究室の担当教員の指導を受けて下さい。			
教科書	(なし)			
参考文献及び指定図書	選択した研究室の担当教員の指導を受けて下さい。			
関連科目	全専門教育科目			

授業の目的	建築学科では、4年次に卒業研究を実施します。これは、各自が興味のある研究室(分野)を選択し、その分野の未知の事象に対して、研究、実験、分析、調査などを通じて原因の解明、新たな開発・提案などを行って、建築学、土木工学の発展、環境・地域の創生に寄与します。研究ゼミナールBでは、研究ゼミナールAに引き続き、卒業研究に入る前に、選択したい研究分野の特徴や残された問題点を理解するために、簡単なテーマを題材として、その調査、実験、理論及び設計計算手法等を修得することを目標とします。
授業の概要	本科目の授業形式は、選択した研究室の担当教員の指導のもとで、毎回設定したテーマに関する講師を交替で務め、質疑応答を繰り返すゼミナール方式で行います。また、地域での実践学修も行います。授業内容、方法およびテーマに関しては、選択した研究室の担当教員の指導を受けて下さい。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：ゼミ活動(1) 吉村研究室では、交通計画手法を実践することを目標に、ゼミ及び演習を行います。特に、佐賀関の交通問題、町や商店街活性化、豊後大野市大野町北部地区の集落維持を題材に実践的に進めます。	ゼミ活動の予習が必要です。
第2週：ゼミ活動(2) 前週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。佐賀関の実践活動の準備も行います。	ゼミ活動の予習が必要です。
第3週：ゼミ活動(3) 豊後大野市大野町北部地区の地域活性化を題材に環境・地域創生コース系の研究室で合同ゼミを実施します。	ゼミ活動の予習が必要です。
第4週：ゼミ活動(4) 前々週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。	ゼミ活動の予習が必要です。
第5週：ゼミ活動(5) 前週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。	ゼミ活動の予習が必要です。
第6週：ゼミ活動(6) 前週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。佐賀関の実践活動の準備も行います。	ゼミ活動の予習が必要です。

第7週：ゼミ活動(7)		
前週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。		ゼミ活動の予習が必要です。
第8週：ゼミ活動(8)		
豊後大野市大野町北部地区の地域活性化を題材に環境・地域創生コース系の研究室で合同ゼミを実施します。		ゼミ活動の予習が必要です。
第9週：ゼミ活動(9)		
前々週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。		ゼミ活動の予習が必要です。
第10週：ゼミ活動(10)		
前週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。佐賀関の実践活動の準備も行います。		ゼミ活動の予習が必要です。
第11週：ゼミ活動(11)		
豊後大野市大野町北部地区の地域活性化を題材に環境・地域創生コース系の研究室で合同ゼミを実施します。		ゼミ活動の予習が必要です。
第12週：ゼミ活動(12)		
前々週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。		ゼミ活動の予習が必要です。
第13週：ゼミ活動(13)		
前週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。佐賀関の実践活動の準備も行います。		ゼミ活動の予習が必要です。
第14週：ゼミ活動(14)		
前週に引き続き、交通問題、町や商店街活性化を題材に演習を行います。		ゼミ活動の予習が必要です。
第15週：ゼミ活動(15)		
豊後大野市大野町北部地区の地域活性化を題材に環境・地域創生コース系の研究室で合同ゼミを実施します。		ゼミ活動の予習が必要です。
第16週：		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリ I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	① 地域への関心を持ち、課題解決の意欲を持続的に発揮できる。
【知識・理解】	② 簡単なテーマを題材として、その調査、理論及び計算手法等を修得できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	③ 地域実践活動において、あらゆる関係者とコミュニケーションをとることができる。
【思考・判断・創造】	④ 地域課題を解決するための方策について創意工夫ができる。

○成績評価基準(合計100点)	合計欄	100点
------------------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			20点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点	20点
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	レポート課題を課し、その内容を評価します。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	成果を発表した際の内容を評価します。 地域実践活動を含めた授業への取り組み状況を評価します。